



オリーブ 便り Olive News

2019.04.01

No. 418



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保



基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

「紹介患者さんの受け入れの現状について」のアンケート結果

当院では総合地域医療連携センターを中心に、紹介患者さんのスムーズな受け入れに向けて、紹介患者予約枠の見直し等、種々の対策を講じて参りました。この度、2018年11月に、「紹介患者さんの受け入れの現状について」アンケート調査を行いました。今回の調査では外来受診と入院受け入れに関するアンケートと同時に様々な意見を自由記載する形式とし、その結果、地域の医療機関、施設等から数多くの貴重な要望、意見等をいただきましたので、そのまとめを報告します。アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

対象は紹介数の多い医療機関の上位200医療機関を対象とし、回答して頂いた医療機関は、200医療機関中133医療機関でした。

まず外来受診に関しては、希望日に予約が可能であるとの回答は72%(84施設)であり、約2-3日の遅れが3%、約1週間以内が14%、約2週間以内が7%でした。また、以前と比較して希望受診日に予約が可能となったか、との問いに関しては23%(30施設)が改善された認識を持たれ、概ね希望日の受診が可能である事が確認されていますが、更なる改善の余地があると考えられます。

次に入院受け入れに関しては、スムーズに入院が可能であるとの回答は91%(68施設)でした。また以前よりスムーズな入院が可能であったとの回答は14%(14施設)であり、入院受け入れは比較的良好であると考えられます。

自由記載のご意見では、外来受診予約に関連して、「患者様の待ち時間が長くなるため、早く返事をしてほしい」、「外来予約票が遅く届く場合は、早めに連絡してほしい」との記載が多く、ご紹介頂く医療施設での目の前の患者様に対する対応を考慮し、なるだけ早期の連絡が出来るよう改善の必要性の認識が出来ました。また入院受け入れに関連して、緊急事態での対応に関し「スムーズで助かっている」との意見がある反面、「入院時の確認の連絡が遅い」、「緊急時は他院に紹介する」、「入院までの時間が短い病院に紹介する」等の対応が迅速に出来なかった事例や、「医師間での連絡はできているが総合地域医療連携センターからの連絡がない」との施設内、外での情報共有が出来ていない事例の指摘がなされています。今後、当院での緊急時の入院受け入れに関しても、診療科ホットラインの有用な活用など改善を行う予定です。

香川大学医学部附属病院では、『ささえる、つながる、リードする』を標語とし、患者様を中心に地域医療機関との密接な連携を十分に行い、地域医療に貢献したいと考えています。今後ともどうか宜しくお願いします。

Q1 外来受診について

以前より希望受診日に予約できる		これまでと変わらない	希望受診日に予約できなくなった
30(23.1%)		95(73.1%)	5(3.8%)
内訳	4~5日早くなった	3	
	5~7日早くなった	4	
	1週間早くなった	3	
	日数記載なし	20	

希望受診日に予約できる	希望受診日に予約できない	
84(71.8%)	33(28.2%)	
内訳	1.約2~3日遅れの予約となる	4
	2.約1週間以内の遅れで予約となる	16
	3.約2週間以内の遅れで予約となる	8
	4.上記以上の遅れで予約となる	4
	日数記載なし	1

Q2 入院受入について

以前よりスムーズに入院できる		これまでと変わらない	スムーズに入院できなくなった
14(13.9%)		85(84.1%)	2(2.0%)
内訳	2~3日早くなった	1	
	5日早くなった	1	
	1週間早くなった	1	
	日数記載なし	11	

スムーズに入院できる	スムーズに入院できない	
68(90.7%)	7(9.3%)	
内訳	1.約2週間以内での入院となる	1
	2.約1か月以内での入院となる	2
	3.約2ヶ月以内での入院となる	0
	4.上記以上の期間での入院となる	1
	日数記載なし	3

数値は施設数(%)

診療科長の横顔

座右の銘、ポリシー

「地域と歩み、ひとを育む」は、循環器・腎臓・脳卒中内科学講座のポリシーです。近隣の医療機関と連携し、地域医療を支えるとともに、香川県唯一の特定機能病院として、高度な医療を提供します。また、高齢化が急速に進み、循環器疾患患者の急増が予測される中、社会や患者のニーズに応える医療技術の研究・開発を推進します。そして、患者さんに寄り添う心を持ち、高度な医療を実践する医療人を育成します。

診療科紹介

ホットラインで地域医療機関と結ばれ、24時間365日体制で診療にあたっています。重症心不全、虚血性心疾患、不整脈、下肢を病変、肺高血圧などの各種疾患に対して、標準治療を安全に行い、高度医療を実践しています。



香川大学医学部
循環器・腎臓・脳卒中内科学
教授 南野 哲男

師長の横顔

病棟紹介

南病棟三階は循環器・抗加齢血管内科、心臓血管外科の患者さんが入院されます。心臓カテーテル検査や治療、また不整脈や心不全の治療を目的として入院して来られる患者さんが対象です。中には突然の発症で緊急を要する重症心血管疾患のため、カテーテル治療や心不全の治療をする患者さんもいます。現在心不全患者さんの約70%が75歳以上と高齢化しており、今後も患者さんの数は増加し、入退院を繰り返すと考えられています。私たち看護師は「思いやりのある看護」を大切に、多職種で連携して、入院時より退院後の生活を見据えて再入院を防ぐことができるように、家族を含めた生活指導やリハビリテーションに力を入れて取り組んでいます。



香川大学医学部附属病院
心臓血管センター
師長 岡崎 廣子



循環器内科スタッフ 集合写真



カンファレンス

「手術で予防できる脳卒中」

香川大学医学部 脳神経外科学 助教 岡内 正信

脳卒中は、日本人の死亡原因第3位・寝たきりになる疾患第1位であり、脳卒中の予防がとても大切です。脳卒中の予防には、お薬などによる内科的な予防と手術による外科的な予防があります。手術で予防できる脳卒中には、くも膜下出血予防のための未破裂脳動脈瘤に対する手術、脳梗塞予防のための頸動脈狭窄症に対する手術などがあります。

くも膜下出血の原因の8割以上は脳動脈瘤の破裂です。未破裂脳動脈瘤に対する手術には、開頭して行うネッククリッピング術と血管の中から治療するコイル塞栓術があります。ただし、未破裂脳動脈瘤が見つかっていても決して全て手術しないといけない訳ではありませんので、脳神経外科医に相談してください。

頸動脈は心臓と脳をつなぐ大切な血管で、ここが動脈硬化などで狭窄すると脳梗塞を発症することがあります。頸動脈狭窄症に対してはまずは内科的治療を行います。狭窄度合いが強く将来脳梗塞を起こす危険性が高い場合には手術が必要です。手術方法は、首を直接切開する頸動脈内膜剥離術と血管を中から広げるステント留置術があります。脳梗塞の症状(手足の麻痺やしびれ、言語障害など)が一時的に出現する一過性脳虚血発作という病態があります。これは脳梗塞の前触れであり、絶対に放置してはいけません!何か心配なことがあれば、いつでも脳神経外科を受診してください。



※第39回イキイキさぬき健康塾(平成30年9月2日開催)の講演内容を要約したものです。

専門看護師・認定看護師の活動紹介

専門看護師・認定看護師会

香川大学医学部附属病院 看護部には、専門看護師3名、認定看護師26名が所属しています。専門看護師、認定看護師は、いずれもさまざまな特定の看護分野で看護実践能力を有すると認められ日本看護協会の認定審査をもって資格があたえられている者をいいます。

私たちは、日々、それぞれの分野で患者さんやご家族が安全に安心して、適切な医療を受けられるよう医師や看護師、薬剤師や管理栄養士など医療を支える医療スタッフとさまざまな側面で一緒に支援を行っています。

私たちは、院内に専門看護師・認定看護師会を設置し、香川大学医学部附属病院の看護師の支援をはじめ、香川県内外の看護実践力の向上に貢献できるよう院外の看護師向けの研修会にも取り組んでいます。また、患者さんやご家族、一般の皆さんがいざという時に備え、自らが進んで医療に参加できるように医療の現状に触れていただくため一般向けの勉強会などにも積極的に取り組んでいます。

近年、医療の高度化や専門化に伴い、私たちの活動の場も増えています。病院内に限らず、いろいろなところでお目にかかることがあるかと思えます。看護部のホームページでも私たちの具体的な活動を紹介しています。ご興味のある方は、是非ご覧ください。

これからも患者さん、ご家族の皆さんに限らず、医療スタッフの皆さんにとってもよいサポーターとなるよう努力していきます。



香川県が被災した想定 of 四国DMAT実動訓練を行いました

救命救急センター

「長尾断層を震源とする大地震が発生し、高松から東讃地域にかけて甚大な被害が発生!高松市内の病院が倒壊の可能性があります!大学病院で患者の受け入れをお願いします!」

四国ブロック内の災害医療派遣チーム(以下、DMAT)体制の強化及び消防、自衛隊等の関係機関との連携強化を目的とした合同訓練が2月10,11日に開催されました。訓練は、四国4県の各県が持ちまわりで毎年開催され本年度は香川県が想定被災県でした。訓練に参加したのは県や高松市の行政、病院、四国内のDMAT、日赤香川県支部、自衛隊など約250名で、訓練内容は、高松市内に設置された避難所を回り災害発生直後の医療ニーズを調査すること、倒壊の恐れがある病院から他の病院へ入院患者を移動させることの2本柱で行われました。

当院は災害発生時には東讃地区活動拠点本部の役割が課せられており、高松市から東かがわ市までの被災している病院の把握や支援訓練を行いました。また院内災害対策本部を設置し、入院患者のベッドコントロールを行って空床を確保し、院外からの被災患者や転院患者の受け入れ訓練を行いました。訓練が始まってすぐに高松市内の倒壊の恐れがある病院からの患者の受け入れ要請の連絡を受け、県庁内に設置された県の災害対策本部や倒壊の恐れのある病院の現地指揮所、受け入れ側の病院と転院のための情報のやり取りを行いました。同様の訓練を昨年8月に実施しており、今回はその時の反省を踏まえて患者受け入れ、治療、ベッドコントロール機能訓練を行いました。同時に新たな反省と課題も多く見付き、今後につなげていく必要があります。災害時あるいはその訓練では、DMATに加え病院全体で対応する必要があります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 倫理委員会委員長
香川大学医学部附属病院 治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー 2019.4~5月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
4/13 土	16:00~19:00	レグザムホール	第64回日本皮膚科学会香川地方会	皮膚科学	(087)891-2162
4/14 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	胆管結石の内視鏡治療	総務課	(087)891-2008
5/12 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	小児外科ってどんな診療科?	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

(H31.3現在)

荒井(検査)、大高(医療支援)、加賀宇(総務)、岸野(病棟)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、富田(経営)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、横井(情報)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]